大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会 蓬 莱 む し の 会 第14号 2025.5.10

医王山訪問

塩尻 哲

春も進み、朝は寒さが残るが日中は汗ばむような日が続く中、4月19日、ギフチョウとの

出会いを楽しみに石川県医王山にむけて出発しました。昨年は越智山に行きましたが空振りに終わりました。今年こその意気込みで! 同行は、小松氏。氏も医王山は初めての山行で、この気温と時期では下見程度ではと話していました。

医王山は「いおうぜん」と読み、石川県金沢市と富山県南砺市にまたがる標高 939m の山塊です。2 つの登山ルートを持ち、富山側からも登頂できるが石川側から山に入りました。

金沢東インターを降り、市街地を進み、広大な敷地 の金沢大学の構内を通り進んでいくと水を満たした田 んぼや畑のんびりとした里山の風景が広がる。左手の スポーツセンターの桜並木は満開を過ぎ花びらが道を 埋めていました。やがて、右にビジターセンター、キャ ンプ場、さらにスキー場。そこには山菜摘みの人が、ポ

カポカ陽気の中、いかにものんびりです(図1)。

林道田島2号線に入り少し行ったところを左に折れたところに車を止め、ギフチョウ探しを始めました(図2)。ちょっと動くと汗ばむような気温と、時期を考えるとギフを拝むのは難しいかもと予想していたのですが、車を止めてすぐ、道を下ったところから小松さんか「飛んでる!」の一声、医王山での初見参です。

期待が持てます。今年こその期待が広がります。準備をして、道を下り始めた私のすぐ後ろに、という声に振り向きましたが見失いました。

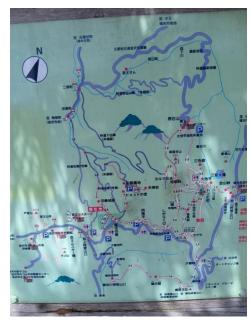


図1 医王山の地図



図2 林道田島2号線の様子 左がサクラ

それ以来姿を見ることがなく時間が過ぎていました。そのうちに道から外れたところを飛ぶギフを見ることができましたが、手の届くところまでは来てくれません。 道の途中の桜の木のそばにいた小松さんの「サクラに来てる」の声で戻ってみると一頭目を採集されていました(図 3)。尾状突起が片方在りませんでしたがなかなかきれいなオスの個体です。



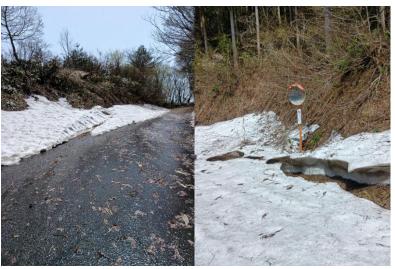


図3 1頭目のギフチョウ

図4 雪の林道

どうやらサクラの花に吸蜜に来ているようです。サクラの木で粘ることにしました。小松さんは別の場所の探査に行かれたようで姿が見えませんでした。その間に吸蜜にやってくる個体が2頭3頭と見られました。残念ながらいずれも手の届かぬところで吸蜜をして飛び去って行きました。そのうち一頭が下の枝に降りてきました。網を振りぬき最初の一頭を手にしました。

生息を確認したので、次の場所夕霧峠へ向いました。しかし、医王の里からは道に雪が見られました(図4)。それから50mほど進むと倒木が道ふさいでいました。通行不能で、医王の里に車を止め徒歩で進みましたがどんどん雪が深くなり1.5 kmぐらい進んだところで夕霧峠は諦め戻ることにしました。

戻る途中、この林道の雪の上をギフが飛んできました。道を横切ってくる個体があるようです。この雪の中でもしっかりとギフチョウが生息していました。ギフは白く輝く雪の上を横切ってきて結構見極めにくいものですが、小松さんはいくつも見つけて採集されます。私もおこぼれをいただきましたが、あまり擦れもないメスでした。

崖の上にサクラの木が 4 本並んでいる所で 昼食をとりながら張っていると、ギフが沢から道を横切ってサクラにやってきます(図 5)。 迂回して崖に上る間に何頭か逃がしました が、崖の上にいれば採ることができそうでし た。私も1オスを獲得しました。

ここでも生息を確認出来ましたし、夕霧峠 の可能性も大きいことを期待して竿を納めま した。

今回は、初めての医王山でした。ギフチョウ の生息も確認できたので下見の目的も達成出



図5 崖の上のサクラ

来たと思います。シカの被害もさほど大きくないような気もしましたので、来年の医王山行きが楽しみとなりました。

チョウから見たびわ湖バレイスキー場の環境

大友 正生

びわ湖バレイスキー場や比良山スキー場は50年ほど前から通ってきたフィールドである。ゼフィルス類・ヒョウモン類・アサギマダラなど平地では見ることが少ないチョウたちと出会え、テンションが高くなる場所である。2024年に行った蓬莱むしの会によるルートセンサス¹⁾の結果から、3通りの評価法を用いてびわ湖バレイスキー場の環境について考えた。

1. 個体数 10 位までの種 2)

ルートセンサスで発見できた上位10種までをあげると、表1のようになった。

この結果からは、森林・林縁性(G)が3種、草原性(F)が6種、人工的な環境にすみ 移動性の高い種(※)が2種となり、スキー場のゲレンデという環境が草原性を高くして いると思われる。

2. 巣瀬の環境指数を用いて 3)

巣瀬氏はすべての種に 1~3 の数値を割り振った。数値が大きいほど自然度の高い環境に すむ種である。これをルートセンサスで発見した種に割り振ると**表 2** のようになった。

その数値の合計は73であった。これを巣瀬の環境評価表(**表3**)から判断すると、びわ湖バレイスキー場の環境は「中自然で農村・人里の環境」となり、期待していた「良好な林や草原」とはならなかった。

3. 田中の環境階級存在比(ER)を用いて4)

田中氏は種類だけでなく個体数も加味した ER 値というもので、環境を評価することを考えた。算出の過程を表4に示した。それに基づく ER 値の算出結果を表5に示した。これによるとびわ湖バレイスキー場の環境は原始段階(非定住非利用)の要素が36%、二次段階(非定住利用)の要素が27%、三次段階(農村・人里)の要素が29%、四次段階(都市・工業社会)の要素が8%となった。つまりびわ湖バレイスキー場は原始段階(非定住非利用)の要素が最も多く、手付かずの環境が残っていると言える。また、二次段階(非定住利用)や三次段階(農村・人里)の要素も少ないとは言えない。

4. まとめ

以上の3つの異なった評価方法でびわ湖バレイスキー場の環境を評価したが、1と2の結果はびわ湖バレイの複雑な環境の一部を示したに過ぎないのであろう。1965年に比良山系南部の原始的な森林にスキー場という人工的な施設が出現したことによって、びわ湖バレイ周辺の環境は複雑多様になっているのは当然であると考えられ、それを適切に表しているのが3(田中の環境階級存在比)であると言える。3の結果から見て幸いに思うのは、原始段階(非定住非利用)の要素が最も大きいということである。現在、シカの食害による植物相の貧弱化、林床の乾燥化、草原化が進んでいると思われる中で、2023年から始めたルートセンサスを継続することによって、これからの変化を見守っていきたい。

参考文献

- 1) 藤野適宏・大友正生・的場亮一・小松清弘・塩尻 哲:2023 びわ湖バレイ ルートセンサス報告. 大原の里と比良の山(2).
- 2) 宮武頼夫:2023.奈良県橿原市南山のチョウ相.橿原市昆虫館報告,2-1,1-9.
- 3) 巣瀬司:1993. 蝶類群集の一方法. 日本鱗翅学会編. 日本産蝶類の衰亡と保護. 2,83-90.
- 4) 田中蕃:1988.蝶による環境評価の一方法.「蝶類学の最近の進歩」. 日本鱗翅学会特別報告. 6,527-566.

表1 個体数10位までの種

	III 1 1 20 1 1 1 III		
順位	種 名	生息環境	個体数
1位	モンシロチョウ	*	238
2位	ウラギンヒョウモン類(サト・ヤマ)	G	183
3位	ツマグロヒョウモン	*	132
4位	オオチャバネセセリ	G	65
5位	イチモンジセセリ	G	43
6位	モンキチョウ	G	35
7位	ミドリヒョウモン	F	20
8位	チャバネセセリ	G	18
9位	アカタテハ	G	15
10位	ヒメキマダラセセリ	F	13
10位	キタキチョウ	F	13

F:森林・林縁性、G:草原性、※:人工的な環境でも住める種

表2 単瀬の環境指数

表2 巣瀬の	環境指数	
科 名	種 名	巣瀬の指数
ア	ウスバシロチョウ	2
ゲ ウハ	アオスジアゲハ	1
· ・	キアゲハ	2
∃ .	ミヤマカラスアゲハ	3
シ	モンシロチョウ	1
ㅁ	スジグロシロチョウ	2
チョ	キタキチョウ	2
ウ	モンキチョウ	2
	ウラギンシジミ	2
	ムラサキシジミ	2
	オオミドリシジミ	2
シジ	エゾミドリシジミ	3
ミチ	メスアカミドリシジミ	3
チ	トラフシジミ	2
ョ ウ	ベニシジミ	1
	ウラナミシジミ	1
	ヤマトシジミ	1
	ツバメシジミ	2
	テングチョウ	2
	アサギマダラ	3
	ルリタテハ	2
	キタテハ	2
タ	アカタテハ	2
テ	ヒメアカタテハ	2
ハ チ	ミドリヒョウモン	2
3	オオウラギンスジヒョウモン	2
ウ	ウラギンヒョウモン	3
	ツマグロヒョウモン	1
	ジャノメチョウ	2
	クロヒカゲ	3
	クロコノマチョウ	3
セ	ヒメキマダラセセリ	2
セ	チャバネセセリ	2
リ チ	コチャバネセセリ	3
3	オオチャバネセセリ	2
ウ	イチモンジセセリ	1
	計	73

表3 巣瀬の環境評価表

環境指数	環境のランク	具体的環境
0~9	貧自然	都市中央部
10~39	寡自然	住宅地·公園緑地
40~99	中自然	農村·人里
100~149	多自然	良好な林や草原
150~	富自然	極めて良好な林や草原

(巣瀬、1998)

表4 環境階級存在比(ER)算出の過程

	補正值合計		生息分	分布度		指標価					
種 名	-						7/	αTi	BT1	<i>[-T]</i>	8 T/
	T	α	B	Γ	8	I					
ウスバシロチョウ	7.5	3	5	2		2	15	45	75	30	0
アオスジアゲハ	0.5	3	3	3	1	1	0.5	1.5	1.5	1.5	0.5
キアゲハ	1.7	3	3	3	1	1	1.7	5.1	5.1	5.1	1.7
ミヤマカラスアゲハ	1.1	5	3	2		2	2.2	11	6.6	4.4	0
モンシロチョウ	149.2	1	1	6	2	2	298.4	298.4	298.4	1790.4	596.8
スジグロシロチョウ	3	3	3	3	1	1	3	9	9	9	3
キタキチョウ	7.7	1	4	3	2	1	7.7	7.7	30.8	23.1	15.4
モンキチョウ	21.8	3	3	3	1	1	21.8	65.4	65.4	65.4	21.8
ウラギンシジミ	0.6	2	6	2		2	1.2	2.4	7.2	2.4	0
ムラサキシジミ	3.8	5	3	2		2	7.6	38	22.8	15.2	0
オオミドリシジミ	1.5	4	4	2		2	3	12	12	6	0
エゾミドリシジミ	1.5	7	3			3	4.5	31.5	13.5	0	0
メスアカミドリシジミ	0.5	8	2			4	2	16	4	0	0
トラフシジミ	1.7	2	6	2		3	5.1	10.2	30.6	10.2	0
ベニシジミ	4.6	3	2	3	2	1	4.6	13.8	9.2	13.8	9.2
ウラナミシジミ	4.3		2	5	3	1	4.3	0	8.6	21.5	12.9
ヤマトシジミ	5.1	2	2	4	2	1	5.1	10.2	10.2	20.4	10.2
ツバメシジミ	0.6	3	3	2	2	1	0.6	1.8	1.8	1.2	1.2
テングチョウ	2.1	5	3	2		2	4.2	21	12.6	8.4	0
アサギマダラ	1.2	6	3	1		2	2.4	14.4	7.2	2.4	0
ルリタテハ	0.6	2	4	4		1	0.6	1.2	2.4	2.4	0
キタテハ	1.3	2	3	3	2	1	1.3	2.6	3.9	3.9	2.6
アカタテハ	8.9	1	4	4	1	1	8.9	8.9	35.6	35.6	8.9
ヒメアカタテハ	1.8	3	3	3	1	1	1.8	5.4	5.4	5.4	1.8
ミドリヒョウモン	11.3	1	9			4	45.2	45.2	406.8	0	0
オオウラギンスジヒョウモン	1.8	2	8			4	7.2	14.4	57.6	0	0
ウラギンヒョウモン	101.5	7	2	1		3	304.5	2131.5	609	304.5	0
ツマグロヒョウモン	77.6	3	3	3	1	1	77.6	232.8	232.8	232.8	77.6
ジャノメチョウ	0.6	4	4	2		2	1.2	4.8	4.8	2.4	0
クロヒカゲ	0.6	6	4			3	1.8	10.8	7.2	0	0
クロコノマチョウ	0.6	6	3	1		3	1.8	10.8	5.4	1.8	0
ヒメキマダラセセリ	7.2	3	5	2		2	14.4	43.2	72	28.8	0
チャバネセセリ	11	3	2	3	2	1	11	33	22	33	22
コチャバネセセリ	13.2	2	6	2		3	39.6	79.2	237.6	79.2	0
オオチャバネセセリ	39.2	4	4	2		2	78.4	313.6	313.6	156.8	0
イチモンジセセリ	16.8	2	3	3	2	1	16.8	33.6	50.4	50.4	33.6
合計	514						1007	3585.4	2698	2967.4	819.2
ER値								3.6	2.7	2.9	0.8
								ps	as	rs	us

・補正値合計T····各調査における所要時間は長短があるので、それをすべて150分間調査した値に換算した。Tはその換算値の合計

·生息分布度··· α :primitive stage(ps—次段階. 原始段階). B:afforested stage(as二次段階. 非定住利用段階.). Γ :rural stage(rs三次段階. 農村段階.). δ :urban stage(四次段階. 都市段階.)

・指標価 I …各種の環境指標性、1~5、数値が大きいほど指標性大

·ER値…環境階級存在比(4つの段階のうちどの段階に属する種が多いか)

たとえば、原始段階(ps)のERは、 $ER_{(ps)} = \frac{\sum_{i=1}^n \alpha_i \cdot T_i \cdot I_i}{\sum T_i \cdot I_i}$

表5 ER算出結果

<u> </u>	- ш ти т			
ER値	3.6	2.7	2.9	0.8
階級	ps	as	rs	us
人工化	原始段階	二次段階	三次段階	四次段階
の段階	非定住非利用	非定住利用	農村·人里	都市·工業社会
	極相林	植裁林	伐採跡地	公園緑地
森林的	天然更新林	薪炭林	採草地	住宅地
環境		疎林·林縁	耕作地	工場
				ビル街
	森林スッテプ	放牧地	牧草地	公園緑地
草原的	低木原	採草地	耕作地	住宅地
環境	荒原			工場
				ビル街

活動 20 周年記念展示を終えて

藤野 適宏

2025 年 3 月 15 日に開催したオオムラサキを守る会の活動 20 周年記念展示「昆虫からみた大原の自然」は、2025 年 4 月 13 日に無事終了することができた。その展示物の項目を図 1 に示す。このうち「 I 大原のオオムラサキと保護活動」は 2022 年度開催の展示を改訂したもの、「 II 大原のアサギマダラとフジバカマ」は 2023 年度開催の展示を改訂したものであり、「 III 大原の昆虫」は今回、新たに構想したものである。

図 2 に今回のために作成した案内用チラシ(的場亮一氏作成)を示す。これを A4 サイズにして 200 枚印刷し、学校や大原文化センターなどで配布した。この案内チラシをもとに案内はがきを 150 枚印刷して、2023 年度展示の芳名録記入者や会員各自の知人等に送付した。また、案内チラシを A3 サイズに拡大して、人の目につきやすい大原各所に掲示していただいた。アサギマダラのメーリングリストにも案内を出した。

これらの案内の工夫が奏功して、期間中推定 160 名の来訪者があった。会員は回り持ちで来訪者に対応した。また、来訪者にはアンケートへの回答と芳名録への記入をお願いした。 芳名録は 141 名に記入いただいた。お住まいの記入によると大原から 44 名、大原以外の京都府内から 69 名、他府県から 28 名で、広い地域から来ていただいたことがわかった。アンケートへの回答は 117 名であった。現在集計中で、どのような分析結果になるのかが楽しみである。

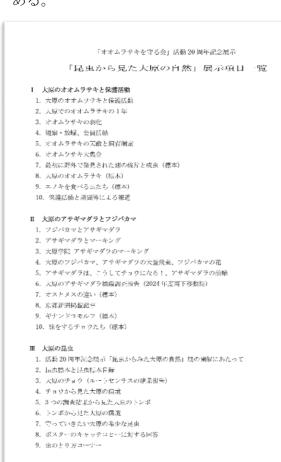




図2 案内チラシ

図1 展示項目

トンボから見た大原の環境

大原のオオムラサキを守る会

「近畿のトンボ¹)」によると、京都府には94種類のトンボが住んでいる。それらが住む場所は水域ごとに決まっている。トンボの住む水域を「トンボ類を指標とした流域環境の評価に関する試み²)」を参考にして9つに小区分して、94種を分類した(表1)。

その次に、大原で記録された 42 種³)を表 1 に入れ込んだ (表 1 の〇印)。各小区分の名称の下の数値は、京都府での記録種数、大原での記録種数の順である。京都府での記録種数 に対する大原での記録種数の各割合(%)を図 1 に示した。これによると、大原での種数の割合が 50%以上ある小区分が 4 つあった。内訳は水田が 67%、緩流(ゆるやかな流れ) 100%、上流~下流 85%、源流 71%である。大原のトンボは この 4 つの水域で多く記録されていると言える。これは大原の立地条件をよく表している。

- ・水田:大原の盆地には多くの水田がある。
- ・緩流:水田の周囲を取り巻く水路がこれにあたる。
- ・上流~下流: 高野川の本流を意味している。
- ・源流:大原の盆地は山が迫っているので、源流に当たる 流れがたくさんある。

この結果から大原は、高野川が流れ下り、周囲に水田が広がっている。豊富な水が周囲の山々から湧き出てきて、水田とその周辺を潤している、という私たちが毎日見ている大原の美しい環境を、生息しているトンボが明らかにしてくれていると言える。この4つの区分に高い密度でトンボが住み続けることができるように、今後もこれらの水域の環境を守っていきたい。(この原稿は同名の20周年記念展示物を改変して作成したものである。文責:藤野適宏)

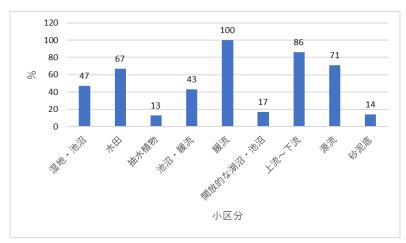


図1 京都府での記録種数に対する大原での記録種数の各割合

表 1 京都府で記録があるトンボの 水域による分類と大原での発見種

本の				と人原での完	
上	大区分	中区分	小区分	京都府で記録がある種	大原で発見された種
本の					O
上地・地 20					
連絡・					0
理能・池					Ü
本語			Same Lie Sie	サラサセンフ	0
15			ı		
カネトンボ				ネキトンボ	
山地一平地 10 コンアキトンボ () マグラナニアンボ () マグラナニアンボ () マグラナニアンボ () マグラナニアンボ () コンタメトンボ () マグラナニアンガネ () マインアカネ () マインアカンドボ () マインアウンボ () マインアウンボ () マインアウンボ () マインアウンボ () マインアウンボ () マインアウンボ () マインアカネ () マインアカネ () マインアカネ () マインアカネ () マインアウンア () マインアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウンアウン					0
山地一平 地地			· '		
上水性					
山地一平 地					
本化性					O
山地一平 地					
山地 ~ 平地 12 12 12 12 12 12 12 1					0
山地~ 平地					, and the second
山地~ 平地 12 8 アキアカネ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					0
山地					
山地			水田		
# 1					0
カトリヤンマ オオシオカラトンボ		地			
カオシオカラトンボ ○ コサナエ コッポントンボ コッポントンボ キイトンボ ルリボシャンマ ネアカコシヤンマ ネアカーシンボ マイコアカネ テョウ・アオイトトンボ オオルリボシャンマ マイコアカネ テョウ・アオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ カオイトトンボ カスジイトトンボ クロイドトンボ クロイドトンボ クロイドトンボ クロイドトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトンボ カオイトトンボ カオイトトンボ カオイトトンボ カオーマーン カオーマーン カオーマーン カオーマーン カオーマーン カナーエ カナーエ カナーエ カオーマーン カオーマーマーン カオーマーン カイーマーン カイース					O
シオキトンボ コサナエ O コサナエ I					0
上流性 コリア・レッド コッポントンボ ルリボンヤンマ ネアカコンヤンツ アオイトトンボ オッネントンボ オッネントンボ オッネントンボ オッキントンボ オッキントンボ オッキン・ア・テラフトンボ イッコウトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ オオイトトンボ カー・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア					
コツボシトンボ キイトンボ					Ŭ
#イトンボ ルリボンヤンマ アオイトンボ コンボンヤンマ マイコアカネ マラットンボ マッコアカネ テョットンボ オオルリボンヤンマ トラフトンボ ペッコウトンボ ペッコウトンボ ペース・トトンボ オオキトンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ カイ・ドンボ オオキトンボ ロース・ディー アオース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカース・ディー アカーカート・アオース・ディー アカーカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカ					
上水性					
上水性					
抽水植物		1	1		
抽水植物 15					0
正水性~ 経液性 15			抽ル鉄ル		
正水性ー ・		1			
正水性~ 観流性			l		
版が性	1		_		0
トラフトンポ ペニイトトンポ オオキトンボ オオキトンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ カオキトンボ セノサシーンボ クロスイトトンボ ロスジイトトンボ ロスジイトトンボ アオバタトンボ ロスジイトトンボ アオバタトンボ ロンボンヤンマ ロンボンヤンマ ロンボンカットンボ ロンボンヤンマ ロンボンオンマンマ ロンボンカットンボ カイマーンボ オオヤンマ ロッチリクアカネ コフギトンボ オグイフンアオイトトンボ オグイフンアオイトトンボ オグイフンアオイトトンボ オグイフンアオイトトンボ マッサンエ ロンボンアオイトトンボ マッサンエ ロンボンカットンボ ロンガントンボ ロンガントンボ コース・カットンボ ロンガントンボ ロンガントンボ ロンガントンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンガントンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカットンボ ロンボンカー ロース・カー・ロース・カー・ロース・カー・ロース・カー・ロース・カー・ロース・カー・ロース・ロース・ロース・ロース・ロース・ロース・ロース・ロース・ロース・ロー	緩流性			ベッコウトンボ	-
ペニイトンボ オオキトンボ オオキトンボ ホッミイトトンボ キャンボ キャンボ キャンボ カッミイトトンボ ウロスジサナエ クロイトトンボ の カメビロエアトンボ の カメビロエアトンボ の カメビロエアトンボ の カメビロエアトンボ の カメビロエアトンボ の カンボイトンボ の カンボイトンボ の カンボイトンボ の カンボイトンボ の カンボイトンボ の カンボイトンボ の カンボーン・カートンボ カッショクショクトンボ カッショクショクトンボ カッテクヤンマ カテクヤンマ カテクアカネ オオママトンボ オオママトンボ オオママトンボ オオママトンボ オオアマトンボ オオアマーンボ カーン・カートンボ オーニーン・カートンボ オーニーン・カートンボ カーニーン・カートンボ カーニーン・カートンボ マーナーエ カートンボ カーニーン・カートンボ マーナーエ カートンボ カーコーン・カートンボ カーコーン・カートンボ カーコーン・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カートンボ カーコーム・カー				アオヤンマ	
# オオイトンボ オオキトンボ オオキトンボ ホソミイトトンボ ホソミイトトンボ ホリーカー ア カー				トラフトンボ	
# オキトンボ キトンボ キトンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンボ キャンガ タスジサナエ フタスジサナンボ クロス・デャンマ クロス・デャンボ ハネビロエゾトンボ ムスジイトトンボ アオバタトンボ グンバイトンボ アオバタトンボ アオバタトンボ ジャマトンボ カッチン・ド コッポンサンエ コシボンサンエ コンボンサンエ フィーシャン・アオーン・アナーン・アナーン・アナーン・アナーン・アナーン・アナーン・アナーン・アナ					
# トンボ ホソミイトトンボ キイロサチエ フタスジサチエ フタスジサナエ ・ サークシャンボ ・ クロスジギンヤンマ ・ クロスジギンヤンマ ・ クロイトトンボ ・ カスジイトトンボ ・ カスジイトトンボ ・ オンボーントンボ ・ カンマトンボ ・ オンマトンボ ・ オンマトンボ ・ オンマトンボ ・ オンマトンボ ・ オンマーン・ボ ・ オンカウトンボ ・ オーロー・ボーン・ボ ・ オーロー・ボーン・ボ ・ オーカリチエ ・ カンサナエ ・ オオカリナエ ・ オイローマトンボ ・ オオリカリナエ ・ オオカリナエ ・ オイロママトンボ ・ オイロママトンボ ・ オイロママトンボ ・ オイロママトンボ ・ オオリカリナエ ・ オオリカリナエ ・ オイロママトンボ ・ オーカー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー					
# カットトンボ キイロサナエ フタスジサナエ					0
# キイロサチエ フタスジサナエ					O
カスジサナエ					
 施沼・緩 セノサントンボ ○ クロスジギンヤンマ クロスジイトトンボ ハネピロエゾトンボ ムスジイトトンボ アオハダトンボ ○ ジャイトンボ アオハダトンボ ○ ジャインファイトンボ ラ コンボンヤンマ ○ コンボンヤンマ ○ ブ・インマーン マーブ・イートンボ オオヤカナエ ○ メーカントンボ ○ ジャーナエ ジンロッナエ ○ ジャーナエ ○ ジャーナーエ ○ ジャーエ ○ ジャーナーエ ○ ジャーナーエ ○ ジャーナーエ ○ ジャーナーエ ○					
 選 クロスンギンヤンマ			池沼・緩		0
日本ビロエゾトンボ ムスジイトトンボ マスジイトトンボ マスジイトトンボ アオバタトンボ () マスジイト () アオバタトンボ () アオバタトンボ () アオバタトンボ () アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・アオ・ア			流		
			14	クロイトトンボ	
世 スジイトトンボ アオハダトンボ ク			6		
正版地~ 平地 「					0
近極地~ 平地 「大きな で で で で で で で で で で で で で で で で で で で					_
正族地~ 平地					0
日底地~ 平地 (0
#					
************************************			緩流		
ハグロトンボ ○ ショウ3ョウトンボ フォーショウンコヴァンボ フォーシンボ フォーシンボ フォーシンボ フォーシンド フォーシンド フォーシンマ ○ フィーシンマ フィーシンボ ○ フィーシーシー フィーシー ○ フィーシー ○ フィーシー ○ フィーシー ○ フィーシー ○ フィーシー ○ フィーシー フィーシ		平地			
ショウショウトンボ ナニワトンボ オオヤマトンボ 湖沼・池 沼12			5	コシボソヤンマ	0
# カーワトンボ					0
開放的な オーマンイトトンボ オオヤマトンボ オオヤマトンボ オオヤマトンボ オオヤマア クラチャンマ タイリクアカネ コフキトンボ オグマサナエ タイワンのチワヤンマ コバネアオイトトンボ オーマンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボニヤンマ コボーマンマ カットンボ グビドサナエ クロサナエ カットンボ クロサナエ カットンボ クロサナエ カットンボ ショウナエ カットンボ ショウナエ オブサナエ オジロサナエ オジロサナエ オジロサナエ オジロサナエ オオサカリナエ オオリカリナエ オオカカリナエ オオリカリナエ オイロヤマトンボ ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミママサナエ ヒヌマイトトンボ ミママサナエ ママサナエ ママサナエ ママウナエ ママウナエ ママウナエ ママウナエ マーマーマー オーマーマース オーマーマース オーマーマース オーマーマース オーマーマース エーマース エーマー					
開放的な ** オオヤマトンボ メガネサナエ ** メガネサナエ ** タイリクアカネ ** コフキトンボ オグマサナエ ** タイワンウチワヤンマ コバネアオイトトンボ オニャンマ コバネアオイトトンボ ** オー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
# 開放的な 湯沼・池					
#Aix ・形		1		J # > # + T	
12 タイリクアカネ コフキトンボ オグマサナエ タイワンウチワヤンマ コバネアオイトトンボ ナーギンマ コオニヤンマ コオニヤンマ コオニヤンマ ミヤマカウトンボ アサヒナカウドンボ マサナエ クロサナエ ムカシトンボ レ メクロサナエ ムカシトンボ ヒラサナエ オジロサナエ オジロサナエ オンリナエ オンリナエ オンリナエ オンリナエ オンリナエ オンサナエ オンサナエ オンサナエ オンサナエ オンサナエ フィサナエ フィサナエ フィサナエ フィサナエ フィサナエ フィナトンボ ミヤマサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					0
12 2 2 2 2 2 2 7 7 7				ウチワヤンマ	ó
2 コフキトンボ					
タイワンのチワヤンマ コパネアオイトトンボ オニヤンマ コオニヤンマ シャマカワトンボ で サセナカワトンボ マサナエ グビドサナエ カカトンボ ○ メナガサナエ ○ ムカシトンボ ○ レメウロサナエ ○ ムカシトンボ ○ ヒンノロサナエ ○ エカンドンボ ○ ヒンメサナエ ○ ボンロサナエ ○ ボンロサナエ ○ ボンリナエ ○ ボンサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンドサナエ ○ ボンド・シボ ○ ボンマサナエ ○				コフキトンボ	
コバネアオイトンボ オニヤンマ					
大二ヤンマ					
上流~下 流					0

 ボ アサヒナカワトンボ 7 6 ダビドサナエ ○ ダビドサナエ ○ ムカナトンボ ○ ロサナエ ○ ムカントンボ ○ ヒメクロサナエ ○ セメウロサナエ ○ センフサナエ ○ センフサナエ ○ ホンサナエ マンサナエ ○ ホンサナエ ○ オオリカサナエ ○ オオリカナエ ○ オオリカナエ ○ オオリカナエ ○ オオリカナエ セスマイトトンボ セスマイトトンボ ミャッサナエ セスマイトトンボ ミャッサナエ 					
6 ヤマサナエ ○ オナガサナエ ○ オナガサナエ ○ ハカントンボ ○ ハカントンボ ○ ヒメクロサナエ ○ アサナエ ○ オジロサナエ ○ ホンサナエ ○ ホンサナエ ○ ホンサナエ ○ オオサカサナエ ○ オオウカサナエ ○ オイリヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					
ダビドサナエ					
タロサナエ			ь		
源流 とメクロサナエ 7 とラサナエ 5 とメサナエ オジロサナエ ○ ホンサナエ ○ オナサカナエ ○ オオサカサナエ ○ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサエ					
洗水性 7 ヒラサナエ ○ ヒメサナエ オジロサナエ ○ ミルンヤンマ ○ ホンサナエ アサナエ ○ おオサカサナエ 7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ			源流		
5 ヒメサナエ オジロサナエ ○ ミルンヤンマ ○ ホンサナエ アオサナエ ジ遊路 オオサカサナエ 7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ	流水性				, and the second
オジロサチエ ○ ミルンオシマ ○ ホンサナエ アオサチエ アオサチエ ジ売底 オオサカサナエ 7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサチエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサチエ	加小丘				
ホンサナエ アオサナエ 砂泥底 オオサカサナエ 7 ギイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					0
アオサナエ 砂泥底 オオサカサナエ 7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					0
砂泥底 オオサカサナエ 7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					_
7 キイロヤマトンボ 1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ			Dl.70 ~		0
1 ナゴヤサナエ ヒヌマイトトンポ ミヤマサナエ					
ヒヌマイトトンボ ミヤマサナエ					
ミヤマサナエ			-		
		<u></u>			
		合計		94	42

- 1) 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明:近畿のトンボ、いかだ社、2009
- 2) 東川航・森照貴:トンボ類を指標とした流域環境の評価に関する試み、土木技術資料65-4、18-21,2023
- 3) 大原のオオムラサキを守る会: 3 つの調査結果から見た大原のトンボ(1)、大原の里と比良の山 10、3-7, 2025

<4 月おもな活動の報告>

- ◆4月9日(水)10:00~ (報告者:小松)
- ○参加者 藤野、木村、塩尻、的場、村上、小松、計6名
- ○活動内容
- ・連絡 (1) 本日の活動内容
 - (2) セブンイレブン助成金
 - ①銀行振込口座の開設 ②助成金の支出について一物品購入は先ずコメリで(物置などについて交渉―複数人で行く)
 - (3) 物置設置について一上田さんを通して地主に承諾を得る(敷地の売却の予定がありその際の撤収を求められる。)
 - (4) 文化センター;金庫跡の整備進行中
 - (5) 地元の西村さんについての情報
- ・作業 (1) ルートセンサス
 - (2) 網室の防草シート張り 西側はシート不足のため仮張り
- ◆4月13日(日)16:00~
- ○参加者 小松、的場、村上、木村、奥谷、大友、藤野、計7名
- ○活動内容:記念展示終了後の片づけ
- ◆4月16日(水)10:00~、13:30~ (報告者:奥谷)
- ○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、的場、大友、村上、奥谷、計8名
- ○活動内容
- 10:00~ 網室
- ・会議 (1) 本日の活動内容 (2) 総会について
- ・作業 (1) 幼虫管理 (2) 網室内、網室外フジバカマ園の除草
- 11:30~(昼食を挟む) 大原BC
- ・オオムラサキの会総会 *詳しくは別紙参照
 - ① 2024年度活動報告 ②2024年度会計報告 ③会則、名簿 ④役員の承認 ⑤2025年度活動計画 ⑥定例活動日の設定 ⑦2025年度の予算の執行 ⑧視察・旅行 ⑨その他の特記事項

*熱心な討議がなされ、いくつか課題が残ったが今後継続して検討することで承認された。 15:00~

- ・パーティションを学校へ返却作業
- ◆4月23日(水) 10:00~、13:00~ (報告者: 奥谷)
- ○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、大友、奥谷、計6名 活動内容

(午前) 10:00~ 網室

- ・会議 (1) 本日の活動内容 (2) 春の和の花展の案内 (3) フジバカマ殺菌剤の紹介
 - (4) 会計報告、会計監査報告 (5) セブンイレブン助成金の支出について;コメリ発注

は役員で、アマゾン発注は藤野で

- (6) 放蝶会 6月21日(土)学校で実施:一般個人参加可(こちらで把握し学校に連絡)
- (7) 里トラ代表山下さんから久保さんに変更
- (1) 幼虫管理、幼虫の頭殻集め (2) 網室外エノキの袋の下を閉める 作業

(午後) 13:00~ 大原BC

- ・作業 BV の標本の返却準備
- ◆4月24日(木)10:00~ (報告者:小松)
- ○参加者 小松、藤野、計2名
- ○活動内容 大原ルートセンサス
- ◆4月29日(火)9:30~ (報告者:大友)
- ○参加者 藤野、小松、的場、村上、大友 計5名
- ○活動内容 びわ湖バレイルートセンサス

【あとがき】

3 月下旬に網室内エノキが芽吹き、越冬幼虫が動き出した。両者が同期しないことが意外と多 く心を痛める年が多い中で、今年は順調である。4月23日に起眠後1回目の脱皮の初見があり、 5月7日には2回目(終齢)の初見があった。これから目が離せない日々が続く。徐々に羽化が早 期化してきて、今年の放蝶会を6月21日と昨年よりも約1週間早めたが、蛹化・羽化が順調に進 むことを心より願う。

フジバカマの連作障害はきびしいものがある。とりわけ網室横のコバノフジバカマは深刻だ。 除草に時間が取れないのも問題に拍車をかけている。比較的白絹病に強い原種フジバカマに置き 換えるのも一案だが、アサギマダラの飛来に開花を合わせるのが難しい。それにアサギマダラは コバノフジバカマの方を好むと思えるのも決断を難しくしている。10月の大量飛来を夢見て世話 を続けていきたい。 (藤野)

目 次 = =

医土山訪問 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1
チョウから見たびわ湖バレイスキー場の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
活動 20 周年記念展示を終えて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
トンボから見た大原の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4 月おもな活動の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
あとがき・目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	R

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会 2025 年 5 月 10 日

第 14 号

大原のオオムラサキを守る会 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町 54 小松清弘 蓬莱むしの会 〒520-0105 大津市下坂本 1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ケ庄西川原 21-151 藤野適宏